

平安女学院がマスコミに報道されました！！

企画展は期間中大きな反響を呼び、成功裏に終了しました。

平成26年10月より設展の中に「月替わり展示コーナー」を設けました！

京都府立歴史博物館で企画展「日本初のセーラー服も紹介」を開催。明治・大正・昭和を通じて、女子学生が着用してきたセーラー服の歴史を、当時の写真や資料を交えて紹介する。また、女子学生が着用してきたセーラー服のデザインや、着用シーンについても紹介する。

資料紹介

「こんにちは、市民学芸員です」

京都府立歴史博物館 市民学芸員 藤田 美穂

京都府立歴史博物館で11月29日(日)～12月27日(日)まで開催の企画展「日本初のセーラー服も紹介」の展示風景を学歴博しんぶんで紹介。

学歴博しんぶん 29

このからの展示

学校を創った風景画

日本画開拓の時代

学歴博しんぶん 25

京都新聞
2015. 2. 20

女子中高生の制服はブレザーが主流と聞かされたが、今もなお根強い人気を誇っているのが「セーラー服」。制服としてこれほど普及した服は世界でも珍しい。こうしたセーラー服は国内でいち早く採用した学校の一つは、京都市の平安高等女学校(現平安女学院)だ(以下、平安女校)。平安女校の前身は、1909年に開校した「京都府立第二高等女学校」で、開校当初は、今の上下分離タイプではなかった。型、志体模範の区別もない大正前期、従来のほかにも動きやすい制服を求め、九州で人気を博したセーラー服を採用した。開校生からそのスタイルを継いだ。開校生の首飾は30年代に於いて各地の高官へだが、大正半ば戦争が始まると、憧れの服をまともに着る機会さえ失われてゆく。セーラー服は、戦中戦後には校内で敬愛された学校作りで、戦争末期には校内に設置された学校売場で、「神風」の鉢巻を締め、運動場を駆け回った。そんな女生徒たちの姿の姿、近日日本の光景が色鮮やかに映る。明治から女子中等教育を担った平安女校は、京都市内に公立と私立を合わせ十数校あったが、戦後の新制中等教育で姿を消した。少女たちの希望と憧れと、記憶にとどめた十市の一ページだ。

学歴博新聞
2014. 2. 25

産経新聞
2015. 1. 22

高等女学校と女学生文化知って

京都市学校歴史博物館で企画展「日本初のセーラー服も紹介」

明治・大正・昭和を通じて、女子学生が着用してきたセーラー服の歴史を、当時の写真や資料を交えて紹介する。また、女子学生が着用してきたセーラー服のデザインや、着用シーンについても紹介する。

大正15年、京都市立第二高等女学校(現京都市立二条中学校)の7名が着用したセーラー服のデザインを再現した写真(左の花見草会提供)

平安女校の前身は、1909年に開校した「京都府立第二高等女学校」で、開校当初は、今の上下分離タイプではなかった。型、志体模範の区別もない大正前期、従来のほかにも動きやすい制服を求め、九州で人気を博したセーラー服を採用した。開校生からそのスタイルを継いだ。開校生の首飾は30年代に於いて各地の高官へだが、大正半ば戦争が始まると、憧れの服をまともに着る機会さえ失われてゆく。セーラー服は、戦中戦後には校内で敬愛された学校作りで、戦争末期には校内に設置された学校売場で、「神風」の鉢巻を締め、運動場を駆け回った。そんな女生徒たちの姿の姿、近日日本の光景が色鮮やかに映る。明治から女子中等教育を担った平安女校は、京都市内に公立と私立を合わせ十数校あったが、戦後の新制中等教育で姿を消した。少女たちの希望と憧れと、記憶にとどめた十市の一ページだ。

京都新聞
2015. 3. 15

戦時下の女学生

もんぺ着用、義務付け

戦時下の女学生は、戦時下の生活に合わせた服装を着用していた。戦時下の生活は、戦時下の生活に合わせた服装を着用していた。戦時下の生活は、戦時下の生活に合わせた服装を着用していた。

高等女学校の校舎 (大正・昭和時代)

個性あふれる建築に

高等女学校の校舎は、個性あふれる建築に。高等女学校の校舎は、個性あふれる建築に。高等女学校の校舎は、個性あふれる建築に。

京都新聞
2015. 2. 15



京都市学校歴史博物館主催
企画展「京都の高等女学校と女学生」



二見書房
「日本のかわいい本」
2015. 3

世代的な優れ目を超え、初めの一歩を踏み出す